

なか おか ゆう すけ
中岡 佑輔

「Kizuku Project」代表
「Trico」代表

21

-中・西部-

応募のきっかけは？

地方でゆっくり暮らしたいなと思っていましたが、移住するとしても歳を取ってからのセカンドライフかなとぼんやり考えていました。「田舎暮らし」をインターネットで検索し、偶然、大阪での移住フェアを知り、情報を求めて参加しました。そこで、山口市などが協力隊を募集していて、協力隊について初めて知りました。

実家のある神戸からは3時間圏内で、すぐに帰れるところが現実的な移住先だと思い、移住フェアで知った、気になる自治体へ下見に行きました。幼少期に山口県に住んだことはありましたが、ほとんど記憶はありませんでした。

着任後の山口市の印象等を教えてください

星が綺麗な反面、夜は暗過ぎてホームシックになりましたが、押しつけがましくない親切さやアットホームさ、地域の距離感というのが自分の肌に合っていました。同じ地域に協力隊OBがいっしょだったことも安心感につながりました。

移住というハードルは感じませんでした。この先、家と仕事とコミュニティが担保されれば、移住への流れは大きくなると感じました。実際に移住してみて、「よっぽどの理由がないと移住してはいけない」という考えが覆りました。移住とは「住む場所が変わった」だけで、移住後は「こっちが楽だなあ」と、以前は肩身の狭い暮らしをしていたことに気付きました。地方暮らしの良さに気付いた人は、地方が良いと思うはずですよ。でも、それを気付くすべがない人が多いとも思います。

隊員時代：皮のワークショップ



隊員時代の思い出を教えてください

「何を求められているか」を吸い上げようとばかりしたり、「協力隊とは何か」などを考え込んでしまったりして、何をしたら良いのか、分からなくなったこともありました。

露出が苦手で、自分と向き合うことをしてきませんでしたが、セルフプロデュースの大切さを認識したので、コンテストなど挑戦できることはしました。

▼ぶち-CONやまぐち
2019 奨励賞



現在、そしてこれからについて

皮関連やイベント企画、移住サポーターなどの仕事をしながら、空き家バンクで見つけた古民家の物件をセルフリノベしています。誰かの、何かの役に立つことがやりがいになっています。

自分はクリエイターだと思っていて、いつか「自分の箱」を持ちたいと思っていました。地方は家賃が安く抑えられるので、クリエイターの仕事場としては最適です。地方にはチャンスがあるし、マーケットのサイズと自分の生産量のバランスが良いのではと思っています。でも、これから個人事業主として壁にぶつかるのかもしれません。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

協力隊は通過点であり、任期中は何かかに挑戦できる貴重な時間なので、先入観を持たずにまずは挑戦してください。

なか おか ゆう すけ
中岡 佑輔さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 山口市
| 活動期間 | 2019年3月～2022年2月
| 活動内容 | ニューツーリズム形成業務

▶ 現在の仕事

「Kizuku Project」代表、「Trico」代表
| インスタグラム |
https://www.instagram.com/kizuku_project/
https://www.instagram.com/trico_2018/



キッチンカー



中岡さんのあゆみ

- 2017.07 ○ 「Trico」開業
- 2018.08 ○ 大阪の移住フェア参加
- 2019.03 ○ 協力隊着任
- 2019.08 ○ ぶち-CONやまぐち
2019奨励賞受賞
- 2020.09 ○ ジビエフェスタ企画
(2021年11月も企画)
キッチンカー製作
- 2021.07 ○ パンと珈琲のマルシェ
企画(10月も企画)
- 2021.12 ○ クリスマスマーケット
企画
- 2022.01 ○ 「Kizuku Project」
開業
- 2022.02 ○ 古民家の
セルフリノベ開始
- 協力隊卒業